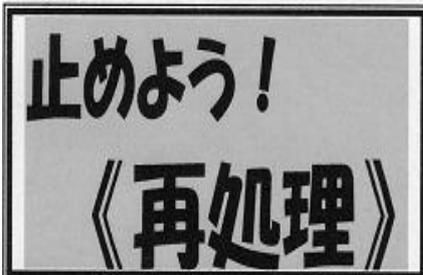


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) 三陸の海・岩手の会
 郵便振替 02240-5-102650
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》
 2014(平成26)年
 12月 5日
 第149号
 編集事務局 S.Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

血税を集めて守る原子力

オラこんな国嫌だ!

衆議院選挙 12月14日 原発ゼロこそ重大争点

安倍自民党は「原発はベースロード電源、新規制基準で確認した原発は再稼働する」と選挙公約しました。溶け落ちた炉心の状況も分からず、事故に至る原因が不明のまま、「(新)原発規制基準」で安全確保は出来ません。原発事故時の避難計画は市町村の責任とされ国の審査対象にもなっていません。原発が稼働すると毎日広島原爆二・三発分の放射性廃棄物を生み出し、その原発が強烈な地震や火山噴火に見舞われた場合、福島事故並みの、あるいはそれ以上の甚大な被害となります。

事故加害者の東電は責任を問われなまま、電気料金値上げを行い、国庫や金融機関から既に五兆円を大幅に超える資金を受け取りました。 チェルノブイリのように「義務的避難区域」とともに「移住保障区域(避難の権利ゾーン)」が設定されていない日本の場合、避難対象区域が解除されるたびに避難住民への「賠償」が逐次打ち切られ、被災の上にさらに困窮した生活が強いられます。

福島原発事故は、経済的損失も甚大です。今後の使用済み核燃料の後始末、原発廃炉、安全化対策を加えると数十兆円かかります。**国民に膨大な負担を強いる原発再稼働などあり得ず、脱原発のみが選択すべき道です。**

原発を再稼働してよいのか?



前回衆議院選のチラシから

「汚染水は管理されている」と国際社会へ向け発言した安倍首相の言葉とは裏腹に、福島事故原発から大量の放射能汚染水が海へ流れ続けています。今回の総選挙で脱原発の日本を選択しよう。

停止しているから、安全へ

停止していても、危険

◎超危険な臨界状態にある原発はない ◎新たな使用済み核燃料が生まれていない。 ◎使用済み核燃料の放射能が少しずつであるが、減衰へ、崩壊熱も下降へ ◎なによりも海への温排水が流されなくなったので、沿岸生態系が昔に戻り始めた! ◎全面停止中でも日本の電気は足りている。原発は「ベースロード電源」ではない。

▲事故原発収束せず、汚染拡大中。地下凍結防護壁は巨費を投じて成功の見通し立たず。タンク林立。▲プールで冷却中の使用済み核燃料が全国で約1万7000ト。▲二つの再処理工場のタンクに高レベル放射性廃液。事業者は「潜在的ハザード(危険)がある」と説明。

投票日は原発稼働ゼロ511日目



泊原発停止 2012年5月5日

午後 11:03 唯一稼働中だった北海道 泊原発停止 (7月1日夜 福井県 大飯原発再稼働)



大飯原発停止 2013年9月15日

午後 11:00 大飯原発停止、再び稼働原発ゼロへ

このまま 原発のない 安全な日本へ

稼働全日ゼロ日数
 2012年5月6日～
 6月30日 56日
 2013年9月16日～
 2014年12月14日 455日
 投票日で511日目

第4回 放射能問題市民交流会

放射能は燃やしても減らない

焼却に代わる埋設なども話し合う



十一月二三日、盛岡市内において、第四回放射能問題市民交流会が開催されました。集まったのは岩手県内の市民グループを中心に、秋田県や宮城県、愛知県からの参加者も含めて二〇余人で、原発事故由来の放射能汚染物焼却、汚染水問題、土壌調査、給食の汚染状況、自然エネルギー、脱原発の運動論など多岐にわたり、夕刻まで熱心な話し合いが行われました。

「ナノ粒子安全性ハンドブック」の数値。

議論は当然ながら、岩手県下二四市町村で行われようとしている農林系副産物焼却問題に集中しました。岩手県資源循環課は全県の対象物や焼却状況を知りながら全てを発表していない。ぜひ、全体像を掴んで焼却を断念させようという意見が多く出されました。また、注目されるべきは『ナノ粒子安全性ハンドブック』（日刊工業新聞二〇一二年九月発行）のバグフィルター（性能試験結果です。1ミクロンのさ

らに千分の1の単位である「ナノ粒子」について、例えば「200ナノmの粒子はバグフィルターで十一%、八五%の初期集じん率」とあり、「九九・九九%」回収する」という環境省の報告が、間違いであることがこの本から分かります。

自然エネルギーの試み

自然エネルギーについての報告がありました。一つは、畜産や食品廃棄物を利用した「バイオマスパワー」会社の見学報告、もう一つは「一関市民なのはなソーラー発電所」の報告でした。「電力固定価格買い取り制度」により、市民出

ストロンチウムの測定が可能に

この他、「再処理工場の危険な状況」学習会や、市民による放射性物質の検出・測定についての報告がありました。県外からの参加者から、測定が難しい、ストロンチウムについて、今後測定可能な市民施設が出来るという朗報がもたらされました。

原発止めたい 盛岡金曜デモ 第100回めは 65人



原発止めたい、盛岡金曜デモは、十一月七日で百回目、六五人参加でした。学習会も設定し、今後も続けます。



コラム 水めがね

高レベル廃液は潜在的ハザード

前号で、再処理工場の高レベル放射性廃液について日本原燃からの回答「潜在的危険は認識している」が「重大事故のシミュレーションはしていない」という記事を書いた。実はJAEAも原燃も「潜在的ハザードは認識している」という言い回しだった。「ハザード」とは何か？「危険」という意味らしい。こういうことは日本語で表してほしい。◆「高レベル放射性廃液」問題は、日本人に突きつけられた非常に重い、国民的、あるいは人類史的課題とも言える。残念ながら脱原発市民の



側も含めてこの深刻な危険は充分理解されていない。◆なぜ危険なのか。それはこういうことだ。原発で使った使用済み核燃料は密閉されて保管されてきたものである。なのにアクティブ試験と称する作業が行われ、密閉されていたものを細切れにせん断し、溶かしてしまつた。事前の計画では、ウランやプルトニウムを抽出し、残った廃液はガラス溶融炉でガラス固化し、「安定化」するとされた。◆ところが、ガラス溶融炉の技術が未完成でガラス固化体は当面実行出来ないというのである。その廃液は、『人が側

に寄っただけで二十秒で即死する』という超危険な放射能液体でしかも膨大な量である。この液体はタンクに貯められているが、冷却しなければ沸騰し、掃気しなければ水素が発生し、爆発や火災の危険がある。◆茨城県東海再処理工場に三九四立方メートル、青森県六ヶ所工場に二〇二立方メートルある。国も事業者も「危険を認識しながらそのシミュレーションをこいてない」というのだ。このことは総選挙で論議されるべきだ。数百年あるいは数万年に一回の大地震も物理的破壊をもたらすのは一瞬であろう。その時に、液体の超危険物を抱えているのは、防護の手段がないではないか。(尚)

これなら出来る原発ゼロ
市民がつくった
『脱原子力政策大綱』
原子力市民委員会
宝島社 定価 920円+税
国民的討議のたたき台として
みんなで読もう！
◎詳細版PDFあり
<http://www.ccne-japan.com/>